

ぱれっと

vol.42

発行 八王子市 編集 市民活動推進部男女共同参画課(男女共同参画センター)
☎042-648-2230 FAX042-644-3910

違いを受け入れて 寄り添うことが大切です

インタビュー 鈴木 明子さん

プロフィギュアスケーターや振付師として活躍するオリンピックの鈴木 明子さんに、フィギュアスケートから考えるスポーツとジェンダー*についてお話を伺いました。

※「女性だから」「男性だから」といった社会によって作り上げられた性差のこと。それ自体に良い、悪いの価値を含むものではなく、国際的にも使われています。



ジェンダーの視点から見る フィギュアスケート

フィギュアスケートは氷上でのジャンプやスピン、ステップなどの技術とプログラムの構成や曲の解釈といった芸術性を競うスポーツです。一人で滑るシングルは男女別ですが、選手に求められるものに性別による違いはあまりありません。

他のスポーツとフィギュアスケートが大きく異なる点は、プログラムで使用する曲や衣装も競技を構成する重要

な要素の一つとなっていることです。多くの皆さんは、例えば陸上競技を観戦していて、ユニフォームの印象で選手を覚えることは少ないのではないかと思います。

フィギュアスケートは曲からイメージを膨らませて、振付はもちろん、衣装や髪型、視線や指先の動きなど細部にまで気を配って演技をします。つまり、演技を見てくださる方にどんな印象を与えたいかを軸に据えて、自身自身をトータルプロデュースしているのです。そのため、選手にとって、「この曲といえば」や、「燃えるような赤い衣装といえば」と覚えてもらえるのは、フィギュアスケートの醍醐味です。

ジェンダーの視点から衣装に着目してみると、かつて女性はスカートの着用が義務付けられていました。しかし、規則が廃止されてからはパンツルックの選手も増えてきています。一方、男性は未だに長パンツの着用が義務付けられています。とはいえ、最近ではフリルやビーズをあしらった華やかな衣装や中性的な印象を受ける衣装の選手も多く見られます。聞いたところによると、少し前までは「男性がフリフリの衣装を着るなんておかしい」という風潮があったそうですから、自由な表現が認められるようになってきていると感じます。

性別による固定観念は衣装に対してのみあるものではありません。私自身の経験では、2012・2013シーズンに映画「キル・ビル」の主題歌をプログラムに起用した際、力強い女性像を表現するため、振付にキックの動きや挑発的な視線を取り入れていたのですが、審査員の評価が分かれているなど感じたことがありました。女性らしい美しさや柔らかさと対比しているプログラムだったので、受け入れてもらえないのかもしれないと悩みましたが、強さの中にある美しさを目指して表現していった結果、シーズンの後半には自分が伝えたいことを理解してもらうことができました。



©N.Tanaka / Shutterz

性アスリートが無月経で悩んでいるといいますが、そもそも、日本では性にまつわる話がタブー視されているような風潮があります。母と娘という関係性の中でも話題にするのには恥ずかしさを感じますし、ましてコーチや監督

性差への理解

私は競技生活中、ずっと生理が不規則でした。練習や減量で自分を追い込んでいる時には生理が来ないのに、シーズンが終わるとすぐに来るという状態でしたので、原因は精神的なものだと思っています。生理が来ないことが、ちゃんと頑張れている証拠だと捉えていました。

レディースクリニックで初めて検査を受けたのは、大学生になって摂食障害を患ったことがきっかけでした。このまま無理をし続ければ、将来子どもを授けられない体になってしまうかもしれないということに、そこでようやく気が付いたのです。聞けば、多くの女

は他人ですから、こうした悩みを打ち明けるのには相当勇気が必要です。指導者には男性が多いので、女性特有の体の変化について理解を得られないのではないかという不安もあるでしょう。私の経験談はメディアにもよく取り上げていただくのですが、女性アスリートからも「よくここまで包み隠さず話してくれましたね」と褒められることがあり、女性アスリートの華々しい活躍の裏に潜む問題が社会にはまだ広く知られていないことを痛感しています。若い選手が私と同じように苦しまずに済むことを願って、今後も積極的に自身の経験を生かした情報発信を続けていくつもりです。

これまでスポーツとジェンダーについてお話ししてきましたが、「女性だから」「男性だから」という見方をするのではなく、一人ひとりを認め合うことが大切だと思います。

私自身も選手の振付をする際には、選手を個人として理解し、フィギュアスケートを楽しんでもらえるようにすることに気を付けています。「鈴木明子」のようなフィギュアスケーターを沢山作り出したいと考えています。

フィギュアスケートは、高難度のジャンプや技に注目が集まります。これらは採点基準が明確化されているた



J SPORTS 提供

め、成否もわかりやすいです。けれどもそうではない部分に選手それぞれの個性や人生が出ます。

私はジャンプで勝負をするというよりも、ステップなどで様々な感情や情景を表現することが好きでした。舞台俳優のように、氷上でならどんな自分にもなれるのが楽しかったのです。演技を見てくださる方にも私が持つ沢山の可能性を見てもらいたかったので、ショートプログラムとフリースケーティングでは対照的なイメージの曲を選んでいったほです。その楽しさを若い選手にも知ってもらいたいと思っています。

選手にアドバイスを求められた時には、まず、「あなたはと思う？」と聞くように心がけています。これは子育てや仕事の場面でも同じことがいえませんが、例えば選手が何か失敗してしまった時に、こちらの価値観を押し付けて頭ごなしに責めてはいけなと思っています。競技との向き合い方は一人ひとり違います。「せっかく練習したのに失敗して悔しい」なのか、「失敗したけど、以前よりもうまくできて良かった」なのか、本人がどう受け止めているかによって、かけるべき言葉も異なります。一人ひとりを尊重することに関してさらに言及すると、私はお互いのすべ

てを理解し合うなんて絶対にできないと考えています。人は誰一人として、全く同じ価値観や考え方を持っていません。それなのに、自分の価値観でもって他者を批判してしまうから、ぶつかり合ってしまうのではないのでしょうか。違いを受け入れるのはとても難しいことですが、歩み寄ろうとする姿勢が大切です。ただ向き合って議論しているだけでは先に進みません。しかし、隣に寄り添って並ぶことができれば、一緒に前へ進んで行けると思うのです。

鈴木 明子 さん

1985年生まれ。愛知県出身。6歳からスケートを始め、15歳で全日本選手権4位。2003年、東北福祉大学入学直後に摂食障害となり、治療後、2004年に復帰。2010年バンクーバー五輪8位入賞、2011年グランプリファイナル銀メダル、2012年世界選手権銅メダル。2014年ソチ五輪では、個人戦で五輪2大会連続の8位入賞を果たしたほか、初めて正式種目となった団体に日本のキャプテンとして出場し、5位入賞。同年引退。

現在は、プロフィギュアスケーター、振付師として活躍。



(仮称)八王子市男女共同参画推進条例の制定に向けて検討を進めています

詳細はばれっと vol.43 (次号)でお知らせします

八王子市では、性別にかかわらず、人がひととして尊重され、いきいきと暮らせるまちを目指して、平成11年(1999年)12月に「男女共同参画都市宣言」をしました。以後、「男女が共に生きるまち八王子プラン」に基づき、男女共同参画に関する総合的な取組を進めてきました。

しかし、いまだに家庭、職場、学校、地域など様々な場面において、性別に基づく固定観念をはじめとした多くの課題が残っており、男女共同参画社会の実現を阻害する大きな要因の一つとなっています。男女の格差を示す指標である「ジェンダーギャップ指数」から見ても、令和3年(2021年)の日本の順位は156か国中120位で、先進7か国(G7)の中では最下位の結果となりました。

こうした中、八王子市における男女共同参画をさらに推進するために、「(仮称)八王子市男女共同参画推進条例」を令和4年度(2022年度)中に制定することを目指し、市民、事業者、地域団体等で構成する検討会を開催して議論を進めています。



ジェンダーギャップ指数(2021) 上位国及び日本の順位

順位	国名	値
1位	アイスランド	0.892
2位	フィンランド	0.861
3位	ノルウェー	0.849
4位	ニュージーランド	0.840
5位	スウェーデン	0.823
	：	
120位	日本	0.656

世界経済フォーラム「Global Gender Gap Report 2021」より作成

※ジェンダーギャップ指数は、「経済」「政治」「教育」「健康」の4つの分野のデータから作成され、0が完全平等、1が完全平等を示しています。

分野ごとの日本の順位

分野	順位
経済	117位
政治	147位
教育	92位
健康	65位

男女共同参画センターの紹介

開館時間 月～土曜日 9:00～19:00
日曜日、祝・休日 9:00～17:00

休館日 原則・毎月第1火曜日(館内点検日)
年末年始(12月29日～1月3日)

女性のための相談

夫婦・家庭間の不和・もめ事の悩み、生き方や人間関係、交際相手との悩みなど、女性の人権に関わることに女性相談員が対応します。

TEL 042-648-2234

電話相談

月～土曜日 9:00～19:00
日曜日、祝・休日、館内点検日
9:00～17:00(年末年始除く)

専門相談

※予約が必要です。
女性のための相談
カウンセリング
弁護士相談

LGBT 電話相談

自分の性や性的指向に伴う相談をはじめ、様々な相談に応じます。本人、家族、友人、教員など、どなたでも相談できます。

TEL 042-648-2238

奇数月の第4水曜日 15:30～18:30

ほっと タイム サービス

女性のための相談・求職支援のための託児サービス(無料)です。

TEL 042-648-2230

※事前登録・予約が必要です。



国や都のDV相談窓口

プラス DV相談+ (内閣府)

「これってDVかな?」「暴力を振るわれている」「今すぐパートナーから逃げたいけどどうしたらいい?」「自分だけでなく子どもたちのことも心配」など、DVに関する相談を受け付けます。

TEL 0120-279-889 24時間受付

チャット相談

12:00～22:00
※左の二次元コードから御利用ください。



ささえる ライン @東京

殴る・蹴る・怒鳴る・無視する・バカにするなど、配偶者やパートナーからの暴力被害に関する相談をLINEで受け付けます。

LINE相談

14:00～20:00
(年末年始、7月第3日曜日除く)
※LINEの友だち登録が必要です。左の二次元コードから読み込んで御利用ください。



DV相談 ナビ (内閣府)

どこに電話すればよいかわからないという方のためのDV相談ナビサービスです。発信地等の情報から、最寄りの相談機関の窓口へ電話が自動転送されます。

TEL #8008

配偶者や恋人からの暴力に悩んでいませんか?

Cure time (内閣府)

性暴力に関するSNS相談です。年齢・性別・セクシュアリティを問わず、匿名で相談できます。

チャット相談

月・水・土曜日 17:00～21:00
※左の二次元コードから御利用ください。



性犯罪被害 相談電話

各都道府県警察の性犯罪被害相談電話窓口につながる全国共通の短縮番号です。発信された地域を管轄する警察の相談窓口につながります。

TEL #8103 24時間受付

性暴力救援 ダイヤル NaNa

東京都と民間支援団体「性暴力救援センター・東京(SARC東京)」が連携して、性暴力・性犯罪に関する相談を受け付けます。

TEL 03-5607-0799 24時間受付

性犯罪・性暴力 被害者のための ワンストップ 支援センター

都道府県の性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター全国共通短縮番号です。発信場所から最寄りのワンストップ支援センターにつながります。

TEL #8891

八王子市の附属機関等への女性の参画状況

附属機関等とは、市の政策や企画の立案過程において、専門的な知識や市民の皆さんの幅広い御意見を反映させることを目的とした機関・会議です。

少子高齢化、人口減少の進展、また、価値観の多様化が進む中で様々な視点が確保されることは、あらゆる人が暮らしやすい社会の実現につながります。八王子市では、令和5年度(2023年度)末に女性の参画率を50%にすることを目指して取組を進めています。

女性参画状況推移

年度	附属機関等数	うち女性がいる附属機関等	委員等総数(人)	うち女性数(人)	女性の参画率
H30	134	104	1,979	655	33.1%
R1	126	100	1,912	655	34.3%
R2	125	99	1,928	655	34.0%